単元株式数の変更及び株式併合について

当社は第72回定時株主総会の決議に基づき、平成29年10月1日を効力発生日として単元株式数の変更及び株式併合を実施いたしました。
なお、この単元株式数の変更及び株式併合に伴う株主の皆様による特段のお手続きの必要はございません。

単元株式数の変更	株式併合
1,000株から100株に変更	5株を1株に併合
単元株式数の変更に伴い、議決権個数は所有株式100株につき1個となります。	ご所有株式数は平成29年9月30日時点の5分の1となりますが、1株当たりの資産価値は5倍となります。そのため株式市況の変動など他の要因を除けば、ご所有株式の資産価値に変動はございません。

例）平成29年9月30日時点で1,000株所持していた場合

平成29年9月30日時点		→	平成29年10月1日時点	
ご所有株式数	議決権数		ご所有株式数	議決権数
1,000株	1個		200株	2個

○ 配当金に与える影響について
株式併合後の配当金につきましては、併合割合を勘案して1株当たりの配当金を設定させていただく予定のため、業績変動など他の要因を除けば、株主の皆様の受取配当金の総額に影響が生じることはございません。

○ 1株未満の端数株式の処分について
会社法の規定に基づき、平成29年10月27日の東京証券取引所における当社普通株式の終値にて当社が買取りを行いましたので、処分代金を当期の中間配当金に合算してお支払いしております。

IRカレンダー（平成29年10月1日～平成30年9月30日）※平成29年12月1日現在の予定です。

■第2四半期決算説明会
■中間報告書発送
■決算説明会
■招集通知発送
■決議通知・報告書発送

第2四半期決算発表　第3四半期決算発表　決算発表　定時株主総会　第1四半期決算発表

10月　11月　12月　1月　2月　3月　4月　5月　6月　7月　8月　9月

平成29年　平成30年　決算期　第2四半期決算期

Ecologically Clean ORGANO
オルガノ株式会社
〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8　経営統括本部　経営企画部　TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス　http://www.organo.co.jp/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

証券コード：6368

第73期中間報告書

平成29年4月1日～平成29年9月30日

Ecologically Clean

オルガノ株式会社

経営VISION

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- ●地球を大切にする経営
- ●お客様を大切にする経営
- ●人を大切にする経営
- ●技術を大切にする経営
- ●株主を大切にする経営

株主の皆様へ

代表取締役社長
鯉江泰行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第73期事業年度（平成29年度）中間期のご報告をいたします。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、欧米の政治・政策面のリスクや北朝鮮における問題など先行きの不透明感が残る中、先進国による内外需要の持ち直しや新興国におけるインフラ需要などに支えられて世界経済が全般的に回復傾向にあることを背景に、電子部品等を中心とした輸出の増加などによって企業の生産活動が拡大し、設備投資も堅調に推移するなど緩やかな回復傾向が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境は、一般産業分野において、国内の老朽化設備の更新、合理化・省力化投資などが底堅く推移する中、日系企業における東南アジア地域の設備投資は勢いを欠く状況が続いております。一方で国内外の電子産業分野における設備投資は活発に推移しており、台湾では若干の停滞が見られるものの、半導体の国産化政策を背景に積極的な設備投資が続く中国とともに、国内でも半導体・ウェハー等の大規模な設備投資計画が相次いで進行しております。

このような状況の下、当社グループは、常に3年先を見通した事業運営を継続するため、最終年度を固定せず毎年ローリングする中期経営計画に取り組んでおります。平成31年度を見据えた計画では、当社グループが強みを有する「電子」「電力」産業分野及び水処理薬品や標準型水処理機器等の「機能商品事業」の更なる強化を中心とした戦略の実行に加え、これまで水処理分野で培ってきた技術と経験を活かし、水以外の液体、さらにはガスの分離・精製など新たな事業分野への展開を検討しております。

この結果、受注高につきましては、設備投資が活発な中国及び国内の電子産業分野において好調に推移し、機能商品事業においても前年同期を上回った影響などにより増加し、395億円（前年同期比3.3%増）となりました。

売上高につきましては、機能商品事業が好調に推移し、水処理エンジニアリング事業においても中国で電子産業分野が大きく伸長しましたが、台湾の電子産業分野及び国内一般産業分野が前年同期を下回ったことなどにより、320億円（同6.9%減）となりました。

利益面につきましては、売上高が減少したことに加え、研究開発投資の拡大や国内・海外での営業・技術・管理体制の強化などに伴って販売費及び一般管理費が増加した結果、営業損失2億円（前年同期は営業利益6億円）、経常損失1億円（前年同期は経常利益5億円）、親会社株主に帰属する四半期純損失2億円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益0億円）となりました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び通期の見通しを勘案し、1株当たり5円といたしました。

2. 通期の見通し

通期の業績見通しにつきましては、国内・中国の電子産業分野で受注が好調に推移していることから、受注高は835億円（前期比12.8%増）と期初計画を上回る見込みです。一方売上高は海外の電子産業分野において一部工事の進捗に遅れが見られることなどから、売上高780億円（同3.8%減）と期初計画を下回る見込みです。

利益面につきましては、水処理エンジニアリング事業において工事の原価低減など利益率の改善が見込まれること、機能商品事業の受注・売上が堅調に推移していることなどから、営業利益30億円、経常利益29億円、親会社株主に帰属する当期純利益20億円と期初計画を据え置いています。

3. 今後の経営方針

近年、スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードの策定に伴い、企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の方針・方策が投資家から注目されてきております。

当社グループは、将来的にROE8%以上を安定的に確保できる収益構造を確立することを目指し、当社のコア技術である分離・精製技術を利用した新規事業の創出・展開に現在注力しております。

例えば、近年急成長しているリチウムイオン電池の関連市場において、電池の製造に使用される溶剤の精製・回収技術や電池の性能低下の要因となる不純物を除去する装置の開発などに取り組んでおります。また、半導体市場において従来の水の供給・回収事業に加え、新たに更なる高度化が求められる半導体の製造工程に向けた研究開発を進めております。

4. 最後に

当社グループは、中長期の持続的な成長を確実にするため、成長に資する新しい事業分野の創出に重点的に資源を投入しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

平成29年12月

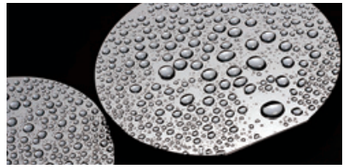
事業紹介

オルガノの事業は、『**水処理エンジニアリング事業**』と『**機能商品事業**』に分かれており、『**水処理エンジニアリング事業**』では、大型水処理関連設備の製造販売を行う「**プラント事業**」と納入した装置のメンテナンスや運転管理、改造工事等を行う「**ソリューション事業**」を展開しています。

▶プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の製造システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。

電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要な水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならずアジア諸国や米国、中東などの発電所向けにも水処理装置を納入しており、その技術力の高さを証明しています。

東京電力㈱ご提供

上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。

医薬品分野

安全性が特に求められる医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度で発熱性物質（パイロジェン）を含まない、安全性の高い水をつくるシステムを提供しています。

▶ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設の水処理装置の状況にあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括で請け負うことにより、安心して装置をお使いいただけます。

■ 運転管理

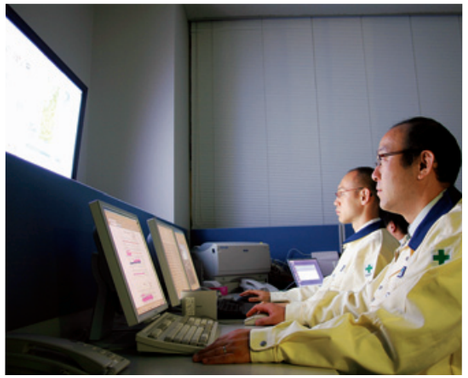
ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが設備を設置・保有し、お客様に代わって水処理を行います。ニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視することで、状況に応じた迅速な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化から異常発生を予測し、水処理プラントの健全な運転に貢献します。



事業紹介

オルガノの事業は、『**水処理エンジニアリング事業**』と『**機能商品事業**』に分かれており、『**機能商品事業**』では、標準型水処理機器や水処理薬品及び食品加工材の製造販売を行っています。

▶機能商品事業

標準型水処理機器

研究所、病院などでの各種分析や検査に不可欠な純水・超純水装置を豊富にラインアップ。お客様の短納期・低コストへのニーズにお応えします。
また手軽に美味しく安全な水を提供できるフィルター型浄水器は、厨房、カフェ、自動販売機など、身近なところで活躍しています。

キャビネットタイプ超純水装置
ピューリックωシリーズ

フィルター型浄水器

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品、ボイラーを効率的に運転する処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、多彩な水処理薬品を取り揃え、装置と組み合わせたトータルエンジニアリングにより、効率的な運転を実現します。

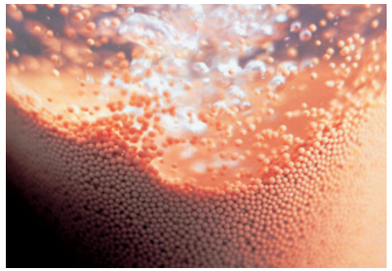
食品加工材

食品安全システムの国際規格であるFSSC22000の認証を受けた工場において、加工食品市場に安心・安全な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。また、介護食、高齢者食など向けに、適度にとろみをつけ、飲み込みを補助する製品もラインアップしています。

イオン交換樹脂

イオン交換樹脂の非水系分野への応用

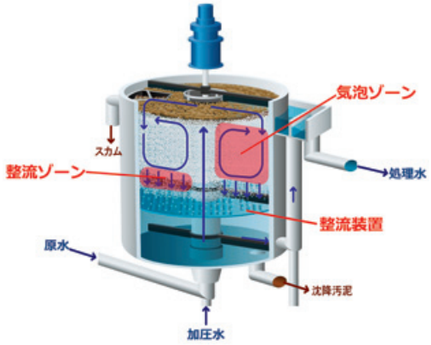
当社のコア技術であるイオン交換樹脂は、イオン類を吸着・除去するという特性を持っており、主に純水製造等「水処理」の分野で利用されています。この技術を生かし、近年では有機溶剤等の水以外の液体への適用にも積極的に取り組んでいます。
パソコンやスマートフォン等で用いられる半導体の製造に有機溶剤やポリマー等が使用されています。その際、有機溶剤やポリマー等に含まれる不純物を限りなく除去する必要があるため、当社が超純水製造分野で培ったクリーン化技術と厳密な製品管理の元で製造されたイオン交換樹脂が使用されています。
半導体の微細化に伴い、今後も微量の不純物除去のニーズが高まることから、更なる技術向上に取り組んでまいります。



TOPICS

高速加圧浮上装置が優秀環境装置表彰において最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞

当社が開発・販売している「高速加圧浮上装置　H-DAFシリーズ」が、第43回優秀環境装置表彰（主催：一般社団法人日本産業機械工業会、後援：経済産業省）の最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞しました。
「高速加圧浮上装置　H-DAFシリーズ」は、従来の装置に比べ約4倍以上の処理速度と、20～50%の大幅なコストダウンを達成した画期的な装置であり、2010年の実用化以降、食品をはじめとする各種産業分野の排水処理向けに50基以上の納入実績を積み重ねています。今回の受賞は環境負荷低減を推進する環境装置の普及に貢献したことが評価されたものです。
今後も高度な環境装置の開発をさらに推し進め、様々な分野で環境負荷低減に貢献してまいります。



高速加圧浮上装置
「H-DAF」概要図

ラボ向け新型純水・超純水装置を発売

小型の標準型水処理装置の主要市場であるラボラトリー分野においては、少量であっても不純物を限りなく除去した高純度の水が求められています。このニーズに対応すべく当社の超純水製造技術をコンパクトな卓上型に凝縮した新製品「α（アルファ）シリーズ」を開発・発売しました 。「αシリーズ」は今後、成長が見込まれるバイオサイエンス関連の研究にも利用できるように、徹底した菌対策を施しました。
2020年度に売上高4億円を目指し、営業活動に取り組んでいます。

ラボ向け新型純水・超純水装置「αシリーズ」

財務諸表等

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期末（平成29年9月30日現在）	前　期　末（平成29年3月31日現在）	比較増減
資産の部			
流動資産	61,586	70,605	△ 9,019
固定資産	24,945	24,800	145
有形固定資産	20,090	20,077	13
無形固定資産	1,064	1,007	56
投資その他の資産	3,790	3,715	75
資産合計	86,531	95,405	△ 8,873
負債の部			
流動負債	29,802	37,640	△ 7,838
固定負債	8,093	8,730	△ 637
負債合計	37,896	46,371	△ 8,475
純資産の部			
株主資本	48,808	49,413	△ 604
資本金	8,225	8,225	–
資本剰余金	7,508	7,508	–
利益剰余金	33,424	34,023	△ 598
自己株式	△ 349	△ 343	△ 6
その他の包括利益累計額	△ 316	△ 509	193
非支配株主持分	143	130	13
純資産合計	48,635	49,034	△ 398
負債純資産合計	86,531	95,405	△ 8,873

◆資産の部
たな卸資産は増加したものの、売上債権及び現預金が減少したことなどにより8,873百万円減少しました。
◆負債の部
仕入債務及び短期借入金の減少などにより、8,475百万円減少しました。
◆純資産の部
配当金の支払及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少などにより、398百万円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（累計）（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）	前第2四半期（累計）（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）	比較増減
売上高	32,003	34,364	△ 2,361
売上原価	24,790	26,620	△ 1,829
売上総利益	7,212	7,744	△ 531
販売費及び一般管理費	7,448	7,057	390
営業利益又は営業損失（△）	△ 235	687	△ 922
営業外収益	124	66	58
営業外費用	72	220	△ 147
経常利益又は経常損失（△）	△ 182	533	△ 716
特別利益	0	0	0
特別損失	1	154	△ 153
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△ 183	378	△ 562
法人税等	51	272	△ 220
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△ 235	106	△ 342
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	17	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△ 253	89	△ 342

◆売上高
主に台湾の電子産業分野において一部工事の進捗の遅れから売上が下期以降にずれ込んだこと、前年同期に好調であった国内の一般産業分野の売上高が減少したことなどから、売上高は32,003百万円となりました。
◆営業利益・経常利益
研究開発投資の拡大などにより販売費及び一般管理費が増加したこと、売上高が減少したことなどから、営業損失235百万円、経常損失182百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（累計）（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）	前第2四半期（累計）（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）
営業活動によるキャッシュ･フロー	△ 2,416	307
投資活動によるキャッシュ･フロー	△ 832	△ 590
財務活動によるキャッシュ･フロー	△ 2,431	△ 957
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	△ 299
現金及び現金同等物の増減額	△ 5,662	△ 1,538
現金及び現金同等物の期首残高	11,340	7,207
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,677	5,668

◆営業活動によるキャッシュ・フロー
2,416百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は、売上債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少、たな卸資産の増加によるものです。
◆投資活動によるキャッシュ・フロー
832百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものであります。
◆財務活動によるキャッシュ・フロー
2,431百万円の資金流出となりました。主な支出は短期借入金の減少によるものであります。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ5,662百万円減少し、5,677百万円となりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（累計）（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）	前第2四半期（累計）（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）
■受注高		
水処理エンジニアリング事業	31,020	30,211
機能商品事業	8,567	8,120
■売上高		
水処理エンジニアリング事業	23,581	26,288
機能商品事業	8,422	8,076
■営業利益又は営業損失（△）		
水処理エンジニアリング事業	△ 1,037	△ 133
機能商品事業	802	820

【水処理エンジニアリング事業】
当事業の受注高につきましては、電子産業分野において、台湾では一部投資計画に遅れが見られたものの、活発に推移した国内の半導体・ウェハー関連の設備投資や、中国での半導体関連投資に対して積極的な営業活動を展開したことなどにより増加しました。
売上高につきましては、中国で電子産業向けの売上高が大幅に伸長いたしましたが、前期に大型案件の売上のあった台湾及び国内の一般産業分野の売上が減少したことなどにより減少となりました。
利益面につきましては、売上高が減少したことに加え、研究開発投資の拡大や国内外での営業・技術・管理体制の強化などに伴って販売費及び一般管理費が増加したことなどにより減少しました。
この結果、受注高31,020百万円、売上高23,581百万円、営業損失1,037百万円となりました。

【機能商品事業】
当事業におきましては、新たに卓上型の純水・超純水製造装置「αシリーズ」を開発・上市した標準型水処理機器分野、電子産業向けの水処理薬剤の販売が好調に推移した水処理薬品分野、介護用等の食品材料が好調に推移した食品分野でそれぞれ受注・売上が伸長したことなどにより増加しました。
一方利益面につきましては、売上拡大によって売上総利益は増加したものの、研究開発投資等の販売費及び一般管理費が増加したことなどにより減少となりました。
この結果、受注高8,567百万円、売上高8,422百万円、営業利益802百万円となりました。

注）本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要（平成29年9月30日現在）

会社概要

商　　号	オルガノ株式会社（英文 ORGANO CORPORATION）
創　　業	昭和21年5月1日
資 本 金	8,225,499,312円
従業員数	連結2,172名（単体1,033名）
事業内容	当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本　　社	〒136−8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号
開発センター	相模原
工　　場	つくば、いわき
支　　店	北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州、台湾

取締役・監査役・執行役員

取締役社長	鯉江　泰行
取締役兼専務執行役員	内倉　昌樹
取締役兼常務執行役員	堀　比斗志
取締役兼常務執行役員	古内　力
取締役兼常務執行役員	明賀　春樹
取締役兼常務執行役員	塩見　正樹
取締役	西澤　恵一郎
取締役	永井　素夫
取締役	照井　惠光
常勤監査役	豊田　正彦
監査役	濵田　治
監査役	和田　正夫
常務執行役員	羽多野　敦
常務執行役員	福田　和久
執行役員	山口　良一
執行役員	真鍋　敏樹
執行役員	大賀　克巳
執行役員	中山　泰利
執行役員	國枝　達也
執行役員	浅野　伸
執行役員	富沢　真
執行役員	島田　健
執行役員	須田　信良

（注1）鯉江泰行は代表取締役であります。
（注2）永井素夫及び照井惠光は社外取締役であります。
（注3）濵田治及び和田正夫は社外監査役であります。
（注4）永井素夫、照井惠光及び和田正夫は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

（国内）オルガノプラントサービス(株)
オルガノフードテック(株)
オルガノエコテクノ(株)
オルガノアクティ(株)

（海外）Organo(Asia)Sdn.Bhd.
奥加諾(蘇州)水処理有限公司（オルガノ）
奥璐佳瑙科技股份有限公司（オルガノ・テクノロジー）
Organo(Thailand)Co.,Ltd.
PT Lautan Organo Water

■ その他グループ会社

（国内）（株）ホステック
東北電機鉄工(株)

（海外）Organo(Vietnam)Co.,Ltd.
Organo(Singapore)Pte Ltd
Murugappa Organo Water Solutions Private Limited

株式の状況・株主メモ（平成29年9月30日現在）

株式の状況

● 発行可能株式総数 …… 126,960,000 株

● 発行済株式総数 …… 57,949,627 株

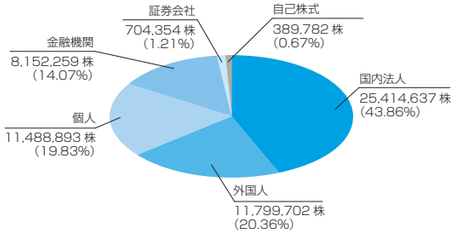
※株式併合に伴い、平成29年10月1日より発行可能株式総数は25,392,000株、発行済株式総数は11,589,925株となっています。

● 株主総数 …… 5,872 名

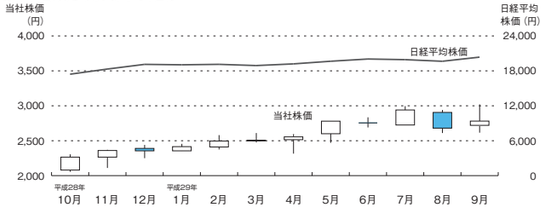
● 大株主（上位10名）

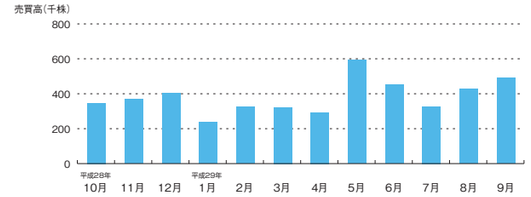
株　主　名	持株数（千株）	持株比率（%）
東ソー株式会社	23,877	41.20
ビービーエイチ　ザ　アドバイザーズ　インナー　サークル　フアンド　ツー　コベルニク　グロ　オール　キャツプ　アフンド	1,989	3.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,347	2.32
GOVERNMENT OF NORWAY	1,227	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,174	2.03
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	747	1.29
ビービーエイチ　ポストン　カストディアン　フォー　ビービーエイチティー　エスアイエイ　ペブタゴン　フアンド　ビーエルシー　コベル620357	650	1.12
ステート　ストリート　バンク　アンド　トラスト　カンパニー	520	0.90

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移





※株価及び売買高につきましては、株式併合の影響を踏まえて換算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
単元株式数	1,000株（平成29年10月1日より100株に変更）
公告掲載方法	電子公告 公告掲載アドレス　http://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	電話0120-782-031（フリーダイヤル）
受付窓口	三井住友信託銀行株式会社　全国本支店
ホームページアドレス	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）

株式に関する諸手続のお申し出先について

■住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。

■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主の皆様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く）でお取り扱いいたします。

中間配当金のお支払についてのご案内方法

中間配当金お支払についての取締役会決議の内容は、郵送による通知に代えて、当社ホームページ（http://www.organo.co.jp/）上でご案内させていただいています。